

2024年1月事業部会「定例会議(林の日)」議事録

日 時：2024年1月11日(木) 17:45～19:30

2024.1.15 作成 1/21 修正

場 所：世田谷区宮坂区民センター 3階 中会議室

参加者：16名(以下敬称略) 長谷川守、脇本和幸、室伏憲治、古谷一祐、氏家清高、三井大造、横井行男、小川里花、榎田幹夫、飯島雅巳、栗原悦郎、浅井記子、宮入芳雄、藤岡眞、萩原卓、小勝眞佐枝、

欠席者(事前連絡)：中林和雄、福田正男、丸山正、枝澤修、横尾俊弘、飯塚義則、臼井治子、芝原久、西出幸子

議事進行：脇本和幸 書記：浅井記子

議 題

(以下敬称略)

(1) 全体(確認・連絡・報告事項)

1. 森の日報告 12/21(木)森の日 (長谷川)

FIT MLにて報告済み

総会でのリアルの会議出席とZoomによるリモート会議参加併用の予行演習を兼ねたが、PC及び收音機との接続不具合により芳しくなかった。次回「森の日」(1/18)で再予行演習をする予定。

① 活動支援助成金のプロジェクトチームの中間報告(会費値下げを含む)

検討中につき2月森の日で提案の予定。会費値下げについては会員全員に賛否のアンケートを行い、総会への提案内容を検討する。

② 運営委員会(森の日のあり方)事務局案、津田案について

事務局案は運営委員の定義の明確化を提案。津田案は評議委員会制度を提案、内容についてはFIT MLで送付済み

③ 2023年度収支、2024年度予算について

時間が不足して十分な討議に至らなかった。次回に持ち越し。

④ 新年観察会、懇親会の申込み状況について

⑤ 来年度の新役員について(新会長候補 小菅智彦氏 12年/内諾済み)

2. 事業部会HP、MLの現況等について(代読：脇本) (飯塚)

ML登録者数161名、前月に同じ。先月と比較して特に大きな動きはML、HPとも無し。ふれあい推進事業の案内は3/24日「高尾山 春の親子自然観察会」まで掲載、報告は12/5「奥高尾 初冬の眺望を楽しむハイキング」まで掲載。高尾山GC作戦は榎田さんにより案内は2/3日153回GCまで掲載、報告は12/2日第152回GC作戦が掲載、講師派遣案件は11/25 田園調布学園土曜講座「哺乳動物と野鳥の生き方を知る」が掲載、内部活動は12/20日低山はいかい「陽だまりの都留アルプス縦走」が掲載。アクセス状況(閲覧回数)は、ふれあい推進事業関連が減少、FITページへのアクセスは若干増加。

3. 事業部会収支見込及び来年度予算(案)について(詳細は2月) (室伏・長谷川)

2023年度収支：FIT交付金は活動促進費に中止案件等があり、94,000円返却予定。

事業部会収支は、ほぼ予定どおりに推移。

2024年度予算(案)：FIT交付金はスタッフ手当10人分(全体の半数)を要求する為に若干プラスで申請予定。事業部会収支は、運営協力金が参加費収入の5%となるため事業部収入が減ることが予想される。予備費から30,000円程度を使用予定。繰越金は約15万円を予定。

(意見)

FIT予算で講師派遣に力を入れるとかHPの充実化を図って頂きたい。

田園調布の講師派遣で資料・資材の運搬を兼ねて車で行く場合の高速料金・駐車料金の支払いの希望があった。➡昨夏の謝金(活動助成金)の件もあり、今は増加希望の提出は適切な時期ではない。

4. 事業部会来年度担当(案)について (脇本)

ほぼ留任を依頼して概ね固まってきた。女性の参加を希望、副部会長は未定。

(2) 各担当の報告等について

1. 森林ふれあい推進事業

- 1) 体験参加者の応募状況について (脇本)
前月の報告に同じ、令和4年吉田昇さん 春の健康ハイク (3/14 実施予定) 体験参加予定
- 2) 企画者会議 (2024. 1. 14・日 10:00～ 森林センター) (脇本・長谷川)
関係者にMLで連絡済み
- 3) 実施マニュアルの見直し等について (脇本)
年2回(4月・10月)見直し、2月事業部会で提案予定。見直し検討事項として募集人数
(上限40人として主幹事が種々の条件を考慮の上、適正な人数を設定)、運営協力金(参加人数x2,000円x5%)、主幹事手当(3,000円)など。
- 4) 名札ケースについて (長谷川)
名札ケースを購入、5色(吊り下げ紐の色)各10個、(¥13,585)、倉庫のキャビネットに収納、旧名札ケースはキャビネット右のプラケースに保管

(実績)

- 1) 氷の華「シモバシラ」と富士山の展望を楽しむハイキング 2024. 1. 9 (室伏)
応募39人、キャンセル2人、参加37人、スタッフ7人、マスコミ掲載無し、これまでの参加者に案内メールを送信(104人)したところ16人から申し込みがあった。当日は天候に恵まれ599ミュージアム、豪華トイレ手前、もみじ台でシモバシラを観察、富士山も見ることができて参加者は満足。初めての幹事を経験して当日までの参加者対応が難しいと感じた。無記入の緊急連絡先の問い合わせや、詳しい情報が届いていないとの参加者からの連絡の対応に追われた。

(予定)

- 1) 相模湖から小仏城山を経て高尾山へ真冬のハイキング 2024. 1. 23 (藤岡)
9日締め切り、応募27人、キャンセル3人、参加予定24人、5班体制から4班に変更、スタッフ6人、16日下見予定。
- 2) 魅力満載 冬の高尾山を歩く 2024. 2. 6 (三井)
応募9人、これまでの参加者に案内メールを週明けに送る予定。1/21アサココに掲載予定、1/9のふれあいイベントでチラシ配布。
- 3) 春の健康ハイキング～北高尾の森で春を探そう～(代読 長谷川) 2024. 3. 14 (中林)
応募1人、マスコミ掲載依頼はこれから、599ミュージアムにチラシ設置、1/9のふれあいイベントでチラシ配布、締め切り2/29、コースの一部が工事中のため2月末に様子を見てコース変更を検討する予定。
- 4) 高尾山 春の親子自然観察会 (萩原) 2024. 3. 24 (氏家)
応募2家族、599ミュージアム、ふれあいセンター、ケーブルカー高尾山駅にチラシ設置、アサココと定年時代に掲載依頼、3/1京王ニュースに掲載予定。4号路の工事終了予定が3/15になり微妙なタイミングだが、本番コースは3/10下見日に下見が出来るコースに変更する。ニレの会とミキの会に班長をお願いしたところ、一人ずつ班長を引き受けてもらえた。2/23下見、3/10下見、3/17リハーサル、新会員がリハーサルに参加予定。
- 5) カクラ・ジュン・ベニダレザクラを訪ねる春風ハイキング 2024. 3. 29 (小勝)
チラシについて、小雨決行 ➡ 小雨実施、チラシは印刷せずHPにアップロード、マスコミ依頼無し、過去のイベント参加者にメールでご案内をする、実施後の運営協力金は2023年度マニュアルに準じる。当日の集合がふれあいセンターのため所長さんに挨拶を依頼。2024年度ふれあい推進事業イベントの一覧表を配布予定。

2. 田園調布学園土曜プログラム (小川)

(予定) 来年度の予定について

内容は前月の報告の通り、学校からの承認を得ている。

3. クラフト等イベント担当 (丸山・枝澤)

(予定) 2024年3月3日(日) 浅川市民センターまつり

主幹事：栗原

参加申し込み済み、2/24打合せ、お日の森くらぶと一緒に対応予定

4. 高尾山G C作戦 (榎田)

(実績) 2024年1月6日(土) 第152回 日影沢コース 集合:高尾駅北口 8時20分
参加23人(スタッフ9人) 5班体制

(予定) 2月3日(土) 第153回 琵琶滝(6号路)コース

集合:森林ふれあい推進センター 8時30分

*2024年8月は熱中症対策として開催しない、7月・9月は距離を短めにして、ケーブルカー高尾山駅をゴールとする。

5. 低山はいかい (代読 長谷川)

(福田)

(実績) 12月20日(水) 陽だまりの都留アルプス縦走

主幹事:小勝

参加19人、快晴。2年前の経験を活かしてプラン作成、桜の季節も訪れる価値がある。

(予定) 2024年1月24日(水) 和紙の里小川町:仙元山とその山麓を探訪する

主幹事:飯塚

現在応募15名(20名程度まで可)

6. 講師派遣 (中林) 別紙参照

前月の報告に同じ、2023年度分は終了

7. 会計報告 別紙参照

運営協力金 3件入金 1/11現在 現在残高 ¥273,410-

(3) その他

- FOREST 通信 vol. 139 の感想: 森守会(立川洋一、西出幸子、イラスト鈴木歩)が加わり、「FIT 新人が立ち上げメンバーに聞く!長く続く FIT の活動の秘訣とは」の中で、(1)親子観察会(宮入芳雄さん・藤田富二さん)(2)多摩の森・大自然塾 鳩ノ巣フィールド(田島弘志さん)(3)高尾山 Green Clean 作戦(津田勝さん)の取材記事が良かった。会員が知りたい情報だったように思う。(長谷川)
- 1/9、高尾森林ふれあい推進センター内で、倉庫と2階へ通じる引き戸の鍵が掛けられて中の人が出られない事態が発生したとの指摘があった。今後は引き戸の鍵がかかっていない場合は鍵をかけることを徹底する。(FITメンバーが倉庫へ出入りする際に要注意) (藤岡)

(参加者の発言・ご意見等)

- 班長の公募を考えている。
- 幹事は自分に任されたイベントを成功させたく、半数ぐらいは前回と同じ人でも良いのでは。
- 幹事は応募してきた人を必要に応じて、採用の有無を決めても良いと思う。
- 若い期の方に参加してほしい ➡ 期の代表者に依頼してはどうか。
- ふれあい事業は若い期の方も可能かと思われるが、講師派遣はある程度経験のある人が必要と思われる。

以上